

四川省成都市の病院で被災者に負傷の状態を聞く
AMD Aの医師ら（AMD A提供）



日本隊より5日早く活動

医療NGOフル回転

四川大地震 台湾支部からも派遣

【成都25日電】中国・四川大地震で、日本政府派遣の国際緊急援助隊医療チームより早く被災地入りし、医療活動中の日本の国際医療非政府組織（NGO）がある。二〇〇五年に沖縄平和賞も受賞したAMD

岡山市のアムダ

A（アムダ、本部・岡山市）だ。現在は四川省成都市の病院を活動拠点に、台湾支部を中心にしたメンバーが治療に当たっている。その迅速な行動は、多くの中国人を感動させている。

【一面参照】

被災者と話せるし、中の多くの謝意が示されて困りもしやすかった」と指摘。成都では被災地で足を切断した患者らの手当てや心のケアに当たっているという。

80歳の男性を11日ぶり救出

【上海25日共同】二十

アムダ台湾支部が被災地の四川省安県の仮設診療所で活動を始めたのは十七日。日本の援助隊医療チームより五日早かった。土砂災害の懸念から、現在は成都市の病院に移り、台湾人の外科医、精神科医ら三人が医療活動中だ。ほかにも調整役のコーディネーター二人が現地入りしている。

アムダは、緊急医療活動を行う多国籍医師団。世界十五カ国・地域で活動し、今はサイクロン被害を受けたミャンマーでも治療活動をしている。今回、四川大地震で素早く活動できたのも、日本からだけでなく、台湾からの医師派遣という機転が功を奏した。

台湾支部からコーディネーターとして被災地に入っている林靖芳さん（ま）は、今回の派遣は上海のNGOの受け入れ協力があったことを明かし、「台湾人医師なら中国語の国際的支援にも、市民

日本本部から派遣されたニッティヤン・ウィーラワークさん（ま）はコーディネーター、スリランカ出身は中国の市民の歓迎ぶりに驚いた。ホテルやタクシー連転手から「ボランティアの医師団だ」と説明すると、宿泊代やタクシー代の受け取りを辞退された。「こんな国民は初めて」と興奮ぎみに話した。

日本の援助隊は二十四日、温家宝首相から激励されたが、ボランティアの男性がハトロール中の警官隊に救出された。男性は尚致寿さんで、下半身不随のため寝たきりの生活を送っていた。地震発生後は、妻がられきの中に閉じ込められた尚さんに「飯や水を届けていたという。